

会報

事務局

北海道札幌月寒高等学校

〒062-0051

札幌市豊平区月寒東1条3丁目1-1

TEL 011-851-3111

FAX 011-851-3112

巻頭言

「教育新時代に対応した定通教育の創造」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長
北海道有朋高等学校副校長 大橋 一夫

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、日頃より本部会の運営・諸事業の推進にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。また、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会定通部会をはじめ関係諸機関には、多大なるご支援とご指導を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会では、全体テーマを「教育新時代に対応した定通教育の創造」とし、①多様化した生徒に応じた定通教育の改善と充実、②勤労青少年の就学条件の改善及び就学の促進、③教職員の定数及び待遇の改善、④組織及び事業の充実と活性化、以上の4点を事業目標に掲げ各種事業に取り組んでいるところです。

一方、文部科学省では、中央教育審議会教育課程企画特別部会において、次期学習指導要領改訂に向けた改訂の基本方針として、「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加え、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を見据え、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を掲げております。また、新しい時代に必要となる資質・能力の育成として、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」が求められ、学びの質を高めるために「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しております。

今日の定時制・通信制高等学校は、働きながら学ぶ生徒はもとより、様々な入学動機や学習歴を持つ者が学ぶ場としての存在意義を持っております。また、生徒の多様化が進む中、多様な学習ニーズに対応する役割を果たしており、不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会提供など、困難を抱える生徒の自立支援等の面でも大きく期待されるようになっております。

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会としても、間近に迫った次期学習指導要領の告示を基に、生徒の実態に応じた、より創造的、効果的な教育の提供が求められおります。全教協や文部科学省、北海道教育委員会の動きを受けながら、生徒一人ひとり学びの充実、能力の開花、そして将来の幸せのために会員相互のネットワークを深め、定通教育に携わる者の使命を果たしていくことが重要だと考えます。

本定通部会が今後ますます「生徒のために心を一つにした部会」となりますようご協力をお願いいたします。この一年間の会員の皆様のご協力に感謝申し上げ、巻頭の辞とさせていただきます。

カリキュラムマネジメントを機能させて学校改善を！

北海道高等学校長協会 定通部会長
北海道有朋高等学校長 宮田 日出夫

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、日ごろから定時制・通信制教育の充実発展に多大なるご尽力をいただいていることに対し、心より感謝申し上げます。

まもなく新しい年度を迎えます。新学習指導要領実施に向けた準備も本格化するかと思います。ご承知のとおり今次の改訂では、学校教育と社会とのつながりを重視する「社会に開かれた教育課程」の考え方を強く打ち出しています。また、「どのように学ぶか」の観点からアクティブ・ラーニングを重視し、カリキュラムマネジメントの実現をもって21世紀に求められる資質・能力の育成を図りたいと訴えています。

カリキュラムマネジメントは、「教育課程経営」などとして、その必要性がこれまでも主張されてきました。しかし、高校では、教科・科目の専門性に重きがおかれがちなことや、学ぶ内容と卒業後の進路との関係が深いことなどから、学校教育目標の達成手段という教育課程本来の姿を考えることが少なかったかと思えます。また、教育課程表レベルで教育課程を考えることが多く、小中学校のように指導計画まで降りて育成すべき資質・能力を教育課程において実現するといった考えが浸透し難い状況にもありました。そのため、資質・能力の育成の観点から教育課程を“マネジメント”するといった意識も希薄ではなかったかと思えます。同様に他の教科科目との関連や地域の教育資源の活用といったレベルでの教育課程のマネジメントを考えてきた教職員は少なかったかと思えます。

一方、今後求められるカリキュラムマネジメントには、各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、学校教育目標を踏まえた教科等横断的視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列することが必要だとされています。また、教育活動の質の向上・教育目標の達成に向け、客観的なデータや資料等を基に教育課程の編成・実施・評価・改善を目指すPDCAマネジメントサイクルを確立することが不可欠だとされています。さらには、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせることが大切だとされています。

こうした新学習指導要領で求められるカリキュラムマネジメントを実現するためには、教科等の縦割りや学年を越えて学校全体で取り組むことが必要です。そのため、全ての教職員がカリキュラムマネジメントの必要性を理解し、その取り組みを進めることが求められます。正直なところ、これらは“言うは易く行うは難し”そのものだと思います。何故なら、カリキュラムマネジメントを実現するためには、前述したような現在の高校が抱える課題の多くを解決する必要があるからです。しかし、このことを逆に言えば、カリキュラムマネジメントを上手く機能させることができれば、先の課題を解決し、学校の機能強化と学校改善に多大な寄与があるということ。つまり、学校改革の一つの手段として、カリキュラムマネジメントを活用することができるということです。

新学習指導要領に関して、既に多くの資料等が出されています。副校長・教頭の皆さんは、立場上、その多くに目を通されていることかと思えます。今後、さまざまな資料や文献等で、高校におけるカリキュラムマネジメントの具体的方策や優れた実践事例などが紹介されるかと思えます。道教委からも関連した資料等が多々配付されると考えられます。“情報過多”の感もありますが、管理職の先生方には、カリキュラムマネジメントを実現し学校改善を図るため、率先垂範、自らがカリキュラムマネジメントを学び、さらなるリーダーシップを発揮し、その実現に努めてほしいと願っています。

平成 29 年度
 北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長
 北海道札幌月寒高等学校 教頭 内海 千尋

日頃より事務局の活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年度の事業につきましては、お陰をもちまして当初の計画通りに実施しております。これもひとえに会員の皆様の御支援の賜と感謝申し上げます。平成29年度定通部会事業報告をもって、北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局からの報告とさせていただきます。

平成29年度定通部会事業報告

● 北海道の事業報告

No.	期日	事業計画	内容及び出席者
1	平成29年 5月17日(水)	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会 (会場) ホテルライフォート札幌	内容：事業・会計報告、事業計画、予算案審議、 研究協議 出席者：44名
2	5月17日(水)	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会 (会場) ホテルライフォート札幌	内容：報告事項、事業計画、予算案審議、 定通体連運協協議 出席者：44名
3	6月5日 (月)	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・ 研究協議会(会場) ホテルライフォート札幌	内容：事業・会計報告、事業計画、予算案審議、 研究協議 出席者：51名
4	8月4日(金)	◆第48回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会 (会場) 札幌工業高等学校	内容：講演、研究協議 出席者：43名
5	10月24日(火)	◆第61回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会(会場) 札幌市教育文化会館	内容：生徒生活体験発表 出席者：234名
6	平成30年 3月上旬	◆平成29年度調査研究部報告書発行 ◆「会報」発行	内容：アンケート調査

● 全国の事業報告

No.	期日	事業計画	内容及び出席者
1	平成29年 5月8日(月) ～9日(火)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 校長並びに教頭・副校長研究協議会 (会場) 秋田明徳館ビル(秋田市)	内容：事業報告、事業計画、予算審議 出席者：有朋高教頭 計1名
2	6月2日(金)	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) (会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	内容：全教協大会議案審議、講演、研究協議 出席者：部会長、事務局長 計2名
3	6月14日(水) ～16日(金)	◆第69回全国高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会(全通研大会) (会場) 島根県民会館(島根県松江市)	内容：総会、研究協議 出席者：有朋高校校長・副校長ほか 計7名
4	7月27日(木) ～28日(金)	◆第69回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協 会総会・教育研究協議会(全教協大会) (会場) 都市センターホテル(東京都)	内容：全国理事会、総会、講演、研究協議 出席者：部会長、事務局長ほか 計4名
5	7月28日(金) ～29日(土)	◆第68回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 (全振大会) (会場) 都市センターホテル(東京都)	内容：報告、研究協議、七十周年記念式典 出席者：有朋高校校長・教頭ほか 計10名
6	8月18日(金)	◆全国高等学校給食研究協議会 理事会・総会 (会場) 東京都学校給食会館	内容：理事会、総会、講演、研究協議 出席者：札工高校長 計1名
7	10月26日(木) ～27日(金)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会(地区通研大会) (会場) 大手門パルズ(山形県山形市)	内容：報告、講演、研究協議 出席者：有朋高校校長・教頭ほか 計6名
8	11月19日(日)	◆第65回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会 (会場) 六本木ヒルズハリウッドプラザ(東京都)	内容：生徒生活体験発表 出席者：生徒・引率教諭 計4名
9	12月7日(木) ～8日(金)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 教頭・副校長研究協議会 (会場) 福島県郡山市	内容：平成29年度事業中間報告、研究協議 出席者：有朋高教頭 計1名
10	12月15日(金)	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) (会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	内容：平成29年度事業中間報告、研究協議 出席者：部会長、事務局長 計2名

高等学校通信制教育70周年記念
第69回全国高等学校通信制
教育研究大会島根大会・研究協議会報告
北海道有朋高等学校 副校長 大橋 一夫

日 時 平成29年6月14(木)・15日(金)
場 所 島根県民会館

高等学校通信制教育70周年記念第69回全国高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会(島根大会)が開催されました。

今回の大会は高等学校通信制教育70周年記念ということもあり、全国の加盟校及び関係機関より351名が参加し、実践発表や活気ある研究討議が行われました。

I 70周年記念式典及び開会式

全通研会長 賀澤恵二NHK学園高等学校長が、主催者挨拶の後、来賓として文部科学省初等中等教育局菅谷匠専門官、全振代表理事石曾根誠一氏、全国定通校長会理事長奥村英夫氏、島根県教育委員会嶋木朗教育長、NHK放送局木村靖局長の祝辞がありました。

70周年を記念して、NHK・NHK出版・NHKエデュケーショナル、阿部育英基金、鈴木克明熊本大学大学院教授に感謝状と記念品が贈呈され、更に、60名の方に表彰状が授与されました。

最後に賀澤会長が「全通研『通信制教育宣言』」を発表し、記念式典を終えました。

II 総会

今年度の事業・決算報告と来年度の事業計画及び予算案が承認されました。また、2校の入会が承認され、加盟校は118校となりました。30年度的全通研大会開催地区(四国地区)、主幹校(愛媛県立松山東高等学校)が提案され、承認されました。

III 文部科学省講演

文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室高校教育改革PT専門官 菅谷 匠氏に「高等学校教育をめぐる最近の動向」について講演していただきました。柱は次の3点で、それぞれ最新の情報も交えていただきながら詳しくお話いただきました。

- 1 高等学校通信制教育の質の確保・向上について
- 2 高大接続改革について
- 3 学習指導要領の改訂について

IV 70周年記念講演

アルピニストの野口健氏に「私の分岐点」と題して講演をしていただきました。

登山は歩くという地道な行為の繰り返し。この細かいこつこつの「こつ」を大切にすることで大きな事ができる。こつこつの「こつ」を大切にしたいと述べており

ました。

V 研究協議会

6分科会(第1分科会:学校運営、第2分科会:国語、第3分科会:英語、第4分科会:家庭、第5分科会:放送教育、第6分科会:人権教育・教育相談)で実践発表や活発な議論が行われました。

上記分科会の中より、第1分科会について報告いたします。

【第1分科会(学校経営)】

◆研究テーマ1

「特別な教育的支援を必要とする生徒の対応について」

～通信制高校における実施状況と

今後の支援のあり方～

神奈川県立横浜修悠館高等学校
副校長 久 祐 田 啓 嗣
埼玉県立大宮中央高等学校
教頭 吉 原 純 忠
群馬県立太田フレックス高等学校
教頭 飯 嶋 幸
茨城県立水戸南高等学校
教頭 栗 田 武 志

1 概要

平成26年度的全通研全国大会の第1分科会発表において、会員校から収集したアンケート結果を踏まえ、「特別な教育的支援を必要とする生徒の対応について」5つの提言が出されました。

この提言の各校における実践状況をアンケート調査し、先進的な取組を紹介するとともに、平成28年4月に実施された「障害者差別解消法」にて謳われている「合理的配慮」の具体的な実践状況から、今後「合理的配慮」をどのようにとらえていくかを模索しました。5つの提言は次の通りです。

「特別な教育的支援を必要とする生徒」に対する

(1) 状況の把握

- ・生徒保護者側の自己申告を促す工夫
- ・前籍校・専門機関との連携強化

(2) 特別な教育的支援の担当と内容

- ・SCや養護教諭の人員配置の充実
- ・職員の専門性を高める研修や組織的対応の工夫

(3) 外部機関との連携

- ・校内の特別な教育的支援組織構築のための連携
(外部機関に個別に相談に行かせるのではなく、近隣の特別支援学校から研修講師を招聘)

(4) 進路指導・就労支援

- ・外部機関(ハローワーク、サポートステーション)の周知徹底と連携

(5) 特色ある取組に関するもの

- ・通信制における特別な教育的支援体制構築のために自校でできることを他校の実践から学び取る積極的な姿勢と実行力の必要性

発表の後段の合理的配慮については、各校の「特別支援教育に関する基本方針」の策定状況や、「校内委員会」の設置状況を踏まえつつ、「物理的環境への配慮」「人的支援の配慮」「意思疎通の配慮」「ルール・慣行の柔軟な変更」の категорияに分けて行った調査結果と考察を説明及び、各校の特色ある取組の紹介を行いました。

以上の考察等から、「特別な教育的支援を必要とする生徒」への対応として、

- (1) 多様な事例から学ぶ。定期的なケース会議、職員全員がスクールソーシャルワーカーの視点で対応。
- (2) アンテナを高く張り、他校の実践から学ぶ姿勢を持ち、自校の取組につなげる。
- (3) 各校で特色ある取組を継続させる。取組を日常の教育活動にどう定着させるか工夫することで教育の質を高めることにつながる。

という3点の提言を行いました。

◆研究テーマ2

「長野西高校の取組と課題」

～一人ひとりに寄り添う教育を目指して～

長野県長野西高等学校

教頭 小林 弘 己

1 概要

長野西高校では、添削研修会、フリートーク、生徒会との連携など、特徴的な取組がなされています。

きっかけは、目的意識もなくただ学校に来るだけといった生徒によって荒れた雰囲気蔓延した平成22年頃から。職員の意識が変わり、CHANGE「変わる・変える」をキーワードに学校をよりよい方向に変えていこうという意識で一致した動きが取られ始められました。特徴的な取組については次の通りです。

2 学校の概要

- ・明治29年開校
- ・全日制普通科・通信制（併設校）
- ・通信制生徒在籍数955名
- ・在籍生徒年齢平均20.7歳

3 特徴的な取組

(1) 添削研修会

- ・年2回（4月と秋）実施している。レポートの添削方法、添削指導の苦労や工夫について共有し、添削指導力の向上を目指している。

(2) 校内公開授業の実施

- ・教員同士がお互いに授業を見合い、その後気軽に交

流できるように授業参観記録表を利用している。

(3) 図書館司書ボランティアの活用

- ・4人の地域ボランティアで年間20日の図書館での貸出業務等を請け負っている。
- ・「生徒と交流できた」「社会に繋がっているという実感がある」等の感想をいただいている。

(4) コンプライアンス研修会

- ・ジグソー法等を用いた体罰や非違行為に関する研修会の実施
- ・生徒を励ます言葉の募集

(5) フリートークの実施

- ・面接、レポート添削に対する生徒アンケートを実施。集計結果と自由記述について、教科会で回答書を作成。職員会議で共有した後、「通信情報」として生徒と保護者宅に毎月送付している。
- ・生徒アンケートをもとに、面接授業やレポート添削、その他学校行事について、生徒と教員が意見交換をする場（フリートーク）を設定している。

(6) 生徒会との連携

- ・周辺地域のゴミ拾い等の清掃活動
- ・挨拶運動
- ・校内生活体験発表会

(7) 全日制との連携

- ・クラブの合同発表（文化祭合唱班）
- ・施設の共有（生徒相談室）
- ・合同清掃

(8) 託児室の環境整備

- ・地元の保育専門学校に依頼し、8人程度の学生を保育アルバイトとして登録。謝金や損害賠償保険は県費で支出している。

(9) 学習支援、特別支援

- ・授業に出たくても出られない生徒、心に悩みを抱えている生徒、レポートが遅々として進まない生徒など、特別な支援を必要とする生徒に対し、手厚い学習支援・特別支援の体制を整えている。

VI 全体協議会

助言者への謝辞を秋口弘司大会実行委員長（島根県立宍道高等学校長）が述べました。続いて、文部科学省への質問・要望に対して文部科学省初等中等教育局菅谷匠専門官が、そして全通研への質問・要望には賀澤恵二全通研会長（NHK学園高等学校長）がそれぞれ説明しました。

VII 閉会式

開催地区を代表して秋口弘司大会実行委員長（島根県立宍道高等学校長）による挨拶に続いて、次期開催地区代表として四国地区通研の石崎 学会長（愛媛県立松山東高等学校長）が挨拶を述べました。最後に、主催者である賀澤恵二会長の挨拶で幕を閉じました。

平成29年度 全国高等学校給食研究協議会
総会・講演会報告
北海道札幌工業高等学校 教頭 佐藤 恵文

平成29年8月18日(金)に平成29年度全国高等学校給食研究協議会総会・講演会が東京都学校給食会館にて開催されました。北海道ブロックからは全国副会長であり、北海道高等学校給食研究協議会の猪股康行会長(札幌工業高等学校長)が出席しました。

1 ブロック会議

昨年度、それまでの北海道・東北ブロックから北海道ブロック(東北全県が退会したため)となったため、今年度からは北海道・東京ブロック(単一構成ブロックどうしの合体)での会議となりました。

猪股会長から、定時制閉課、給食業務委託校増加等の理由から、近い将来全国協議会からの退会もあり得ること、それについては次年度の担当校(札幌北)を中心に検討をすることなどが報告された。また、来年度の全国大会(全国大会は偶数年度で開催)での研究発表担当校は札幌北であることの確認がなされた。その上で、次年度以降の担当ローテーションの中で予定されている平成34年度の研究発表については、退会による全国大会不参加の可能性を考慮し、決定の保留をお願いした。

2 総会

- (1) 平成28年度会務報告
平成28年度会計決算
平成29年度役員改選
平成29年度事業目標
平成29年度会計予算

(2) 今後の運営について

次年度の日程はH30.1月に決定し通知。

3 講演会

演題 「地域の食で子供が育つ学校給食」

講師 食環境ジャーナリスト、食総合プロデューサー
金丸 弘美 氏

4 その他

平成30年度ブロック選出役員

- ・ブロック選出副会長 札幌北高校長
- 常任理事 札幌北高校教頭

平成30年度「全国大会」研究発表担当
札幌北高校

第68回全国高等学校定時制通信制

教育振興会大会・研究協議会(東京大会)参加報告
北海道札幌北高等学校 教頭 斉藤 智英

第68回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会及び70周年記念式典・祝賀会が平成29年7月28日(金)、29日(土)の2日間の日程で、東京都千代田区のJA共済ビル、都市センターホテル、星陵会館を会場として開催されました。

今大会のテーマは「知を学び、術を学び、心を学ぶ、夢を見出す定通教育の推進」という内容で全国各地から代表が集まり、有意義な研究協議と情報交換、70周年を記念する式典等が行われました。

大会1日目は、午前中から行われた理事会・評議員会、各県代表者会議に続き、島村直伸会長、松野博一文部科学大臣、中井敬三東京都教育委員会教育長の挨拶をはじめとした開会行事・総会・研究協議会、午後からは70周年記念式典・講演会・祝賀会が行われました。その後の総会では、平成28年度会務報告・事業報告と平成29年度事業目標・事業計画の報告がありました。

70周年記念式典

では功労者表彰が行われ、北海道高等学校教育振興会の岡本健治監事が全表彰者を代表し謝辞を述べられました。また、式典後の記念講演会では、(株)エー・アイ・クリエイション社長の谷口 愛氏から『どん底からの逆転』という演題で、ご自身の体験を基にした講演がありました。

研究協議では「チーム学校の教育力を向上させる支援の在り方について」のテーマで2日間にわたり4校の取組が紹介され、熱心な研究協議が行われました。

大会2日目には、文部科学省、厚生労働省から質問・要望事項について、①定時制高校の制度上の改革等について②特別な配慮が必要な生徒への対応について③キャリア教育の充実と就職支援の推進について④福祉

サービス等の機関へ繋ぐ体制づくりの強化について、の回答があり、大会宣言を決議して大会を終了しました。



サービス等の機関へ繋ぐ体制づくりの強化について、の回答があり、大会宣言を決議して大会を終了しました。

**平成 29 年度 第 68 回全国高等学校定時制通信制
教頭・副校長協会教育研究協議会
第 3 分科会 管理運営 に参加して
「社会に開かれた教育課程」を目指してカリキュラ
ム・マネジメントを行う校内体制を整える
北海道函館商業高等学校 教頭 奥山 逸子**

標昨年 7 月 27・28 日に東京都で行われた第 68 回全国高等学校定通教頭・副校長協会研究協議会に参加し、第 3 分科会（管理運営）で発表しました。渡島管内函館地区の少子化の現状・見通しと、勤務校である函館商業高校の実情や校内活性化及び生徒募集に向けて取り組んでいること等を述べ、会場から複数の質問や示唆をいただきました。今回、このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝いたします。

函館市は人口 26 万 3685 人で、道内第 3 位の都市ですが、例に漏れず高齢化と人口減少が急速に進んでいます。管内高校数は道立 17 校、私立 8 校の計 25 校で、私立学校の割合が高く函館市内に集中していることが特徴です。本校は、商業科事務情報科で、中学校新卒者をターゲットにした場合はあまり競合しませんが、周辺の高校数が多く、近年生徒募集に苦慮しています。管内中卒者数の推移を 7 年間でみると、平成 35 年で約 686 人減です。函館市内では 300 名減、隣の北斗市で 63 名、計 9 クラス相当分になりますが、道教委の対策として統廃合と間口減で平成 32 年度までに 4 間口減を見込み、9 クラスには満たないので、私たちは戦々恐々としています。この窮地を乗り越えるため、ターゲットを分散させることを考えています。そこで、新学習指導要領答申概要版が昨年末に出ることを機に、本校でも「社会に開かれた教育課程」を創ろう、経済的や諸事情により定時制を選択する中学生にだけ焦点を当てるのではなく、地域の社会人、そして生涯学習の観点に立って、どんな人も、どんな時からも学べる、社会のニーズに合わせた「社会に開かれた教育課程」を創り整えていこうと考えました。本校は、今年で開校 114 周年を迎える全道最古の定時制です。明治 36 年に私立で夜間補習教育を行ったことから端を発し、校是に土魂商才を掲げ、個人として、社会人として、産業人として資質の育成を行うことを目標としています。商業科なので「産業人」という言葉を使い、地域の地域経済を支える商業人を育てることが目的です。

定時制では、特に生徒の理解と生徒指導、そして学習指導の両輪が相まって健全な生徒を育成することができると思います。例えば、生徒指導ばかりにかまけていたら学習指導がおろそかになり生徒の進路選択の際の可能性を狭めてしまうことになりかねないと思っています。このバランスが難しいですが、本校では、平成 27 年度までの 3 年間「学力定着に課題を抱える学校の重

点的・包括的支援に関する調査研究」文部科学省指定事業を受け、研究してきました。生徒の基礎学力を定着させるためには、生徒の自己受容をしっかりと認識させ、家庭や学校、地域における自己有用感を高め、基礎学力を定着させていくという手順が必要です。その両輪がないと、卒業後に社会的・職業的な自立ができる市民にはならない。このために、授業と様々な行事を絡めて行い、教員のみならず一人でも多くの大人（地域社会）が生徒に関わるという施策を、出来るだけ沢山作ろうという方針です。この 2 年余り、商業教育の観点から、教育活動の整理・拡大を考えてきました。地元企業との商品共同開発の機会、地域の販売会への参加（販売実習体験）、2 学年全員でのインターンシップ（2 日間）、全校生徒による校内商業教育体験発表会、体系的なキャリア教育の実践（社会人講話、分野別進路講話等）、そして「函館学」の取り組み。また、来年度より 1 年生の簿記（4 単位）と情報処理（2 単位）で、科目履修生を各 10 名受け入れ、地域に門戸を開きます。

おわりに、本大会で得た定時制・通信制の教頭・副校長先生方との交流は、酷似する悩みの共有と解決に向けた苦悩と実践、その一端を垣間見たとても有意義な時間でした。

**第 65 回全国高等学校定時制通信制
生徒生活発表大会参加報告
北海道札幌東高等学校 教頭 高橋 一幸**

平成 29 年 11 月 19 日（日）、東京都港区の六本木ヒルズを会場として、定通教育 70 周年記念平成 29 年度第 65 回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催されました。北海道からは本校 3 年の阿部アンジェリカさんと釧路工業高等学校佐々木彩香、有朋高等学校通信制の西島幸音の 3 名が出場しました。全国の定時制通信制高等学校に学ぶ生徒が学校生活や、日常生活の中で感じたことや学び得たことを 7 分という時間の中に凝縮して発表することで、多くの人々に感動と励ましを与えることを目的として開催される大会で、今年は「定通教育 70 周年」に当たる記念の大会でもありました。



大会は午前の部において各都道府県の代表58名が5会場に分かれて発表し、各会場の上位3名の15名が午後の全体発表へ出場しました。



アンジェリカさんの演題は「気球の旅」。フィリピンで生まれ、祖母と共に過ごしていた彼女が母の暮らす日本へ来て、新たな家族と過ごす中で言葉や生活文化の違いを乗り越えて、将来の夢を追いかけようと頑張りますが、家庭の事情により高校進学を諦め働らかざるを得なかつたこと。現在のご主人と出会い、仕事の関係から東京での生活が始まり、さらに札幌への移動とめまぐるしく変わる、自身の環境の変化と、定時制に通うことで新たに生まれた日本語の理解の難しさを乗り越えるための挑戦を「気球に乗って風まかせの旅を続ける姿になぞらえて」環境に左右されること無く、その時その場で出来る努力を続けることが大切なことと発表してきました。

北海道から参加した3人はそれぞれしっかりと前を見つめ全道大会よりもさらに内容を充実させ大会に臨んでいました。その中で有朋高校の西島さんが午後の全体会に進出し、「読売新聞社賞」を受賞しました。また、札幌東高校の阿部さんが「文部科学省初等中等教育局長賞」を、釧路工業の佐々木さんは「厚生労働省人材開発統括官賞」をそれぞれ受賞しました。

支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会

空知支部長

北海道滝川高等学校教頭 笹原 明男

1 空知地区の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会空知地区は、北海道岩見沢東高等学校・北海道滝川高等学校・北海道天売高等学校・クラーク記念国際高等学校・星槎国際高等学校の5校により運営されている。毎年

5・6月に定体連大会、9月に生活体験発表大会空知大会、11月に空知管内高等学校定時制通信制教育研究会総会並びに研究協議会が実施されている。

2 生活体験発表大会【9月27日(水)】

第61回目を数える本大会は本校を会場として行われた。各学校の校内選考を勝ち抜いた北海道岩見沢東高等学校(代表)3名、北海道滝川高等学校(代表)2名、北海道天売高等学校(代表)2名の計7名が熱いスピーチを行い、接戦僅差により北海道天売高等学校女子生徒による「後悔しないために」が最優秀賞となり、全道大会への出場を果たした。

3 管内高等学校定時制通信制教育研究会総会並びに研究協議会【11月10日(金)】平成29年度は本校を会場に実施された。総会では、平成28年度事業報告・会計決算報告・監査報告の他、平成29年度事業計画案・予算案・平成30年度以降の研究会の開催についての審議が行われた。その後の研究協議会においては、北海道滝川高等学校養護教諭による「riskの基本的理解」について、どのような検査を行い、どのようなことがわかるのかを模擬演習を交えて講演いただいた。この検査を有効に利用するためにも、利用する側の検査に対する意識・知識を高めていくことが大切であることを参加者全員が理解することができた。

研究協議ではクラーク国際記念高等学校教諭による「クラークのキャリア教育」と題して行われた。3年計画の進路活動への取り組み、資格取得、キャリア教育の3つの枠組みで行っており、すべての活動が社会で活躍できる力の育成につなげているとの説明があった。協議後、ご出席いただいた空知教育局教育支援課高等学校教育指導班主査より、最近の生徒の特徴としてストレス対応能力が十分ではなく、困難に出会った時にやめてしまう傾向にあるので、その対応を考えた指導を行うこと、それにあわせ知識の習得と活用をつなげた指導を行っていくことが大切であるとのことご助言をいただき、研究協議会を終えた。



支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

道北支部長

北海道旭川工業高等学校 教頭 古屋 順一

1 道北支部の概況

道北支部は、旭川市内4校（旭川東、旭川北、旭川商業、旭川工業）および上川管内2校（士別東、幌加内）、宗谷管内1校（稚内）の計7校で構成され、互いに連携を深めながら道北地方の定時制教育推進に向けて意欲的に教育活動を行っています。教頭間での日常的な情報交換や相談等のやりとりが多く、課題解決に向けて7校が一丸となって取り組む雰囲気が本支部の大きな特徴です。

2 道北支部の事業

(1) 定通体連上川支部大会（5月27日）

- ・バスケットボール（旭川工業高校）
男子 優勝 旭川北高校
準優勝 旭川工業高校
- ・バドミントン（旭川東高校）
男子団体 優勝 幌加内高校
準優勝 旭川工業高校
男子個人 優勝 阿部 真心（幌加内）
準優勝 角内 創（幌加内）
第3位 佐藤 雅希（稚内）
安住 寿蓮（幌加内）
女子団体 優勝 旭川東高校
女子個人 優勝 佐藤 蒼（旭川東）
準優勝 中島 真夢（旭川東）
第3位 西條 夏菜（幌加内）
塚林 優菜（旭川東）
- ・卓球（旭川北高校）
男子団体 優勝 旭川工業高校
準優勝 旭川北高校
男子個人 優勝 尾崎 友奎（旭川工業）
準優勝 楠木 雅也（幌加内）
第3位 須賀 大志（士別東）
小野沢 康（旭川北）
女子個人 優勝 平賀 菜々（士別東）
準優勝 平賀 麻衣（士別東）
第3位 大八木梨沙（旭川北）
- ・柔道
女子52kg級 優勝 田中 杏奈（旭川北）
女子63kg級 優勝 金廣 未来（旭川北）

<全道大会>

- ・バスケットボール（江別高校）
男子 第3位 旭川北高校
- ・バドミントン（札幌西高校）
女子団体 第3位 旭川東高校
- ・卓球（札幌東高校）
男子個人B 第3位 尾崎 友奎（旭川工業）
女子個人A 第3位 平賀 菜々（士別東）
女子個人B 優勝 平賀 麻衣（士別東）
- ・柔道（恵庭南高校）
女子個人52kg級 優勝 田中 杏奈（旭川北）

女子個人63kg級 優勝 金廣 未来（旭川北）
全国大会では卓球の尾崎君（旭川工業）、平賀菜々さん・平賀麻衣さん（士別東）、柔道の田中さん・金廣さん（旭川北）がそれぞれ健闘しました。

(2) 旭川市高等学校定時制・通信制教育振興会

6月23日（金）にコートホテル旭川を会場に総会・研究協議会が行われました。本振興会からは、生活体験発表大会への支援をはじめ、関係機関への下校時巡回要請、市内定時制生徒実態アンケートの実施等、旭川市内4校定時制高校の教育活動へのサポートをいただいています。

(3) 生活体験発表大会道北地区大会

9月15日（金）に旭川市大雪クリスタルホールを会場に生活体験発表大会が行われ、各校の代表生徒がそれぞれの体験や思いを力強く発表しました。結果は以下の通りです。

- ・第61回道北地区高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会
最優秀賞（北海道新聞社賞）
「为了人而活着～誰かのために生きること～」
藪下 智英（稚内高校1年）
優秀賞2位（NHK旭川放送局長賞）
「なりたい自分」
寺本 姫果（旭川東高校2年）
優秀賞3位（定通振興会長賞）
「農業の六次産業化～生かされてきた、今とこれから～」
石川 朋佳（幌加内高校2年）

最優秀賞を受賞した稚内高校の藪下さんは、10月24日（火）札幌市教育文化会館で行われた全道大会において、奨励賞6位（振興会長賞）を受賞しました。

(4) 研究協議会

11月10日（金）に花月会館（旭川市）を会場に平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会定通部会道北支部研究協議会が行われました。平成29年度事業報告および平成30年度事業計画、当番校の確認、実践発表および研究協議等の内容で、活発な意見交換をしました。

本研究協議会は昨年度まで年2回（6月・11月）の実施でしたが、平成29年度は遠方の高校の負担に配慮し、1回開催としました。しかし、教頭間での情報交換の場として重要な会であり、年2回開催が望ましいのではないかと、この意見もあるため、平成30年度以降については再度検討することとなりました。

支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

根釧支部長

北海道釧路湖陵高等学校 教頭 西本 健治

1 釧根地区の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会釧根地区は現在、夜間定時制課程の釧路工業高校と釧路湖陵高校の2校で構成されている。

今年度も5月に「定通体連支部大会」、9月に「生活体験発表大会」、そして新しい試みとして、11月に両校の3年生を対象とした進路ガイダンスを釧路湖陵高校で初めて実施した。



2 釧根地区事業

(1) 定通体連釧根支部予選会

今年度の定通体連釧根支部予選会は5月27日(土)に男子バスケットボールを釧路工業高校体育館で男女バドミントンを釧路湖陵高校体育館で実施した。一時は生徒数の減少や部活動の加入率の低下等の理由から予選が行われなかった時代もあったようであるが、今年度については2種目の予選会を両校とも全校応援で開催することができた。結果は以下の通りである。

【バスケットボール】

男子 優勝 釧路工業高校
準優勝 釧路湖陵高校

【バドミントン】

個人男子 優勝 栗田 健冨 (湖陵)
準優勝 玉澤 歩武 (工業)
3位 伊東 聖克 (湖陵)
個人女子 優勝 藤島 星南 (湖陵)
準優勝 吉田 知世 (湖陵)
3位 種田あやの (湖陵)

(2) 生活体験発表大会釧根支部予選大会

9月14日(木)に釧路工業高等学校を会場に実施した。道路を挟んでお互いの学校が立地しているという条件をいかし、両校の全校生徒を会場に集めて大会を実施した。4名の生徒が出場し自らの体験や思いを熱

く語った。

結果は「回り道」と題して発表した釧路工業高校の佐々木彩香さんが第一席に輝き、全道大会への出場を果たした。佐々木彩香さんは全道大会でも入賞し全国大会へ出場。釧根地区からは2年連続の全国大会への出場となった。



3 釧根地区2校の教育活動

(1) 釧路工業高等学校

本校は昭和38年に機械科、昭和40年に電気科がスタートした専門高校である。本校定時制教育は働きながら学ぶ者だけの学校から多様化した生徒が地元中心に集まっている。現在は、働きながら技能・技術を学ぶ生涯学習の場、生徒と地域住民が共に学ぶ場として地域に根ざし開かれた学校作りを目指している。

学校生活では、生徒会活動の活性化や、部活動の充実、また、効果的な学校行事の精選に努め、「明るく楽しい活力ある生活」、「自主・自立」を目指し工夫改善を重ねている。

資格取得では、放課後の時間を利用し夜遅くまで講習を実施し、在校生の多くが何らかの資格を取得するなど、取組が目に見える形で成果をあげている。このように学校が魅力を持ち、活性化するための具体的な方策を実践しつつ、管内唯一の定時制工業高校として、特色ある学校づくりに、全職員、心をひとつにして取り組んでいる。

そのことが生徒個々の能力を開花させ、写真甲子園全国大会出場。生活体験発表大会全国大会に出場を果たした。参加した生徒は、自信が付き、新たな目標ができた。他の生徒は、自分達もできると、切磋琢磨し、次は、自分達の出番であると、チャレンジ精神が高まっている。今後も地域の方々など多くの応援団の方々の力もいただき、前進していきたいと考えている。

(2) 釧路湖陵高等学校

本校は大正12年の私立釧路商業中学校夜間部開校に始まり、5年後には百周年を迎える伝統ある夜間定時制高校である。

少子化が進む社会の中で、本校への入学生徒は増加しており地域からの期待に応えるべく教育活動を実践している。今年度については、高文連の大会で演劇部が

優秀賞を受賞。また、釧路管内「いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクール」のポスター部門において本校生徒が最優秀賞を受賞するなど様々な場面で活躍している。また、進路活動においても長期休業中の講習や企業訪問等への参加等、資格取得や進路実現に向け自主的・積極的に取り組む生徒の姿が多く見られるようになってきている。

多様な生徒のニーズに応えるために特別教育支援支援員や学校サポーターの活用、パートナーティーチャーやスクールカウンセラーとの連携、そして、今年度より学校設定科目（ベーシックスタディ、教養・自然科学）を設定するなど、個に応じた指導の充実を図っている。

第61回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会報告
北海道札幌月寒高等学校 教頭 内海 千尋

第61回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は平成29年10月24日（火）に札幌市教育文化会館において開催されました。関係各位の多大なるご指導とご協力をいただき、無事終えることができました。大会運営の当番校として心から感謝申し上げます。

さて、今年度は全道9支部の定時制高等学校の代表者10名と通信制高等学校の代表者1名、そして当番校枠として北海道札幌月寒高等学校より1名の計12名により行われました。全ての発表が大変素晴らしく、様々な困難の中で、家族や友人などの支えにより前向きに努力している姿や、病気を克服して目標に向かって取り組む姿勢が表れていました。参観していた生徒の皆さんはもとより、御来賓をはじめ多くの聴衆の皆様にも大きな感動を与えるものばかりでした。

生活体験発表と閉会式の間に行われたアトラクションは、札幌月寒高校全日製の吹奏楽部の演奏を披露していただきました。課程は異なりますが、同じ高校生が大会に華を添えてくれました。この場を借りてお礼申し上げます。

審査は全国大会の審査規準に準じ、審査委員長である北海道札幌琴似工業高等学校長 福井 誠 様をはじめ6名の審査委員により発表内容、発表方法について慎重に審査していただき、北海道代表として北海道札幌東高等学校及び北海道釧路工業高等学校の2名の生徒が選ばれました。11月に行われた全国大会には北海道の代表として自信と誇りをもって臨み、その力を存分に発揮してくれたと確信しております。

本大会の詳細な内容につきましては、平成30年1月末に発行予定の「輝く青春」第51集に掲載させていただき、全道の定時制・通信制の学校にお届けしますので、是非御覧いただきたいと思っております。定時制・通信制に通いながら生活している生徒達の声に耳を傾けてい

ただければ幸いです。

終わりにになりますが、会場の札幌市教育文化会館のスタッフをはじめ、全道の定通教育に携わっている全ての方々並びにご協力をいただきました関係各位にこの場を借りて感謝申し上げ、報告とさせていただきます。



第61回 北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 2017.10.24 札幌市教育文化会館

高等学校定時制通信制体育大会報告
北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長
市立札幌大通高等学校教頭 熊谷 修司

平成29年度の事業につきましては、関係各位のご尽力により、すべて滞りなく終えることができました。各支部事務局校、当番校、専門委員におかれましては、春の支部大会に始まり北海道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、事務局（市立札幌大通高等学校）のWebサイト (<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairen/>) に掲載しておりますが、今年度も北海道チームの活躍は目覚ましく女子陸上走り高跳で札幌大通高校の鎌田莉衣奈さんが2年連続優勝、男子バレーで飛鳥未来高校が準優勝、男子バドミントン団体で札幌月寒高校が準優勝という特筆すべき結果を残しております。定時制通信制という恵まれない環境のもと日々努力を重ね精進した選手、指導に当たられた顧問の皆さまに心より敬意を表します。全国大会では、バレー、バスケット、卓球の三会場を訪れ北海道チームを応援しました。全力プレーに胸が熱くなりました。特に男女のバスケットでは、プレーはもちろんマナーや態度が素晴らしく、全国に誇れる代表チームでした。これまでの専門委員の努力の結晶だと感服いたします。その他、全てをご紹介するスペースがなく残念ですが、多くの種目で全力を尽くし晴れやかな表情を浮かべた選手がいたのを嬉しく思います。道内では生徒数が減少し、それに伴う教員数の減少で大会の運営が困難な状況もありますが、ご理解・ご協力をお願いする次第であります。また、定通部の大会では記録や勝敗にこだわらず、スポーツを愛する心や目標に向かって挑戦すること、お互いの健闘をたたえあうことを標榜してきました。この理念のもと、健全な青少年育成を目指し各校での部活動へのご指導をお願い申し上げます。

調査研究部報告
教頭・副校長会定通部会調査研究部長
北海道札幌月寒高等学校 教頭 内海 千尋

昨年8月に行われた中教審「学校における働き方改革特別部会」の緊急提言によると、「教職員の長時間勤務の実態は看過できない状況にあり、授業改善をはじめとする教育の質の確保・向上や、社会での活動を通じた自己研鑽の充実の観点からも、『学校における働き方改革』を早急に進めていく必要がある。」ということである。

現在、定時制通信制教育を取り巻く環境はますます複雑化し、学校に対する保護者の要請も多様化している。さらには、特色ある教育活動が強く求められている。このような中で、教職員の業務量は徐々に増大し、教職員の健康管理についても対策が取られるようになってきている。

このような情勢を受け、今回、「定時制通信制高校における業務分担の適正化と三修制の導入について」というテーマで調査を実施した。定時制の少ない教職員体制における効率的な分掌配置と業務内容の適正化について、また、特色ある教育活動の一つである三修制の実態を明らかにするため、本調査を実施した。

調査方法

質問紙によるアンケート（選択方式及び記述方式）
調査対象は、北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会に加盟する42校（全て公立）とし、調査期間は平成29年11月2日（木）～同年11月24日（金）とした。42校から回答が得られ、回収率は100%であった。アンケートによって得られた回答を調査研究部員が集計・検討し、分析結果を文章化した。

調査研究部

部長 内海 千尋（北海道札幌月寒高等学校）
部員 円山 健一（北海道札幌南高等学校）
部員 渋谷 圭（北海道江別高等学校）

平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会調査研究報告
定時制通信制高校における業務分担の適正化と三修制の導入について

定通部会調査研究部

調査研究部長 内海千尋（北海道札幌月寒高等学校）
調査研究部員 円山健一（北海道札幌南高等学校）
調査研究部員 渋谷圭（北海道江別高等学校）

1 はじめに

平成28～29年度の2か年で実施された「教育政策に関する実証研究」の一つとして、教員勤務実態調査が行われ、その結果から昨年8月29日、文部科学省中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」で次の3つの緊急提言がなされた。

1. 校長及び教育委員会は学校において「勤務時間」を意識した働き方を進めること
 2. 全ての教育関係者が学校・教職委員の業務改善の取組を強く推進していくこと
 3. 国として持続可能な勤務環境整備のための支援を充実させること
- 1.では「執務環境を整備し、無制限無定量の勤務を是とするのではなく、限られた時間の中で最大限の効果を上げられるような働き方改革を進める必要がある」とし、教職員の意識改革を図る取組が求められている。
- 2.では学校の業務や教職員の業務の範囲の明確化を行い、教職員が本来業務に集中できるような体制の検討を進め～中略～時間外勤務の削減に向けた業務改善方針・計画を策定することとしている。
- 3.では環境整備のための外部スタッフの支援について述べられている。

これらの観点から、「定時制通信制高校における業務分担の適正化」について、そして戦後の定時制・通信制の役割の変化に伴う、多様な学びのニーズに対応する方策のひとつとして、平成元年から認められてきた「三修制」の導入について、課題やその解決のための方策について調査研究に取り組んだ。

2 アンケート調査の概要

調査は、質問紙によるアンケート（選択方式及び記述方式）によって実施した。

調査対象は、北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会に加盟する42校（全て公立）とし、調査期間は平成29年11月2日（木）～同年11月24日（金）とした。42校から回答が得られ、回収率は100%であった。調査研究部員がアンケート結果を検討した。ただし、北海道有朋高等学校は課程が異なるため、データとしては2校として扱っている。

3 アンケート結果について

アンケート結果は、設問項目の種類によって分類し、次のとおり考察した。

大分類	中分類	考察対象の設問
I 基本事項（設問1-1～7）		
II 学校の様子について（設問2-1～9）	ア. 規模について イ. 職員について ウ. 給食について	設問2-1～2 設問2-3～6 設問2-7～9
III 業務分担の適正化について（設問3-1～8）	ア. 分掌について イ. 委員会について	設問3-1～2 設問3-3～4

	ウ. 養護教諭について エ. 業務の平準化について (自由記述)	設問 3-5~6 設問 3-7~8
IV 三修制について (設問 4-1~11)	ア. 三修制の対象 イ. 修得単位について ウ. 三修制の生徒について	設問 4-2~3 設問 4-4~7 設問 4-8~10

(1) 学校の様子について

5年前と比較すると、1間口の学校数は33から34に増加した。全校生徒数が80人以下の学校は現在74%を占めており、定時制の学校規模は縮小の一途を辿っている。

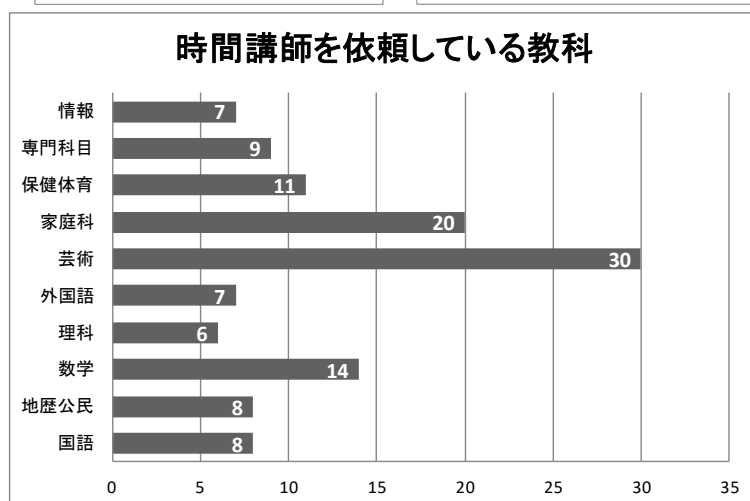
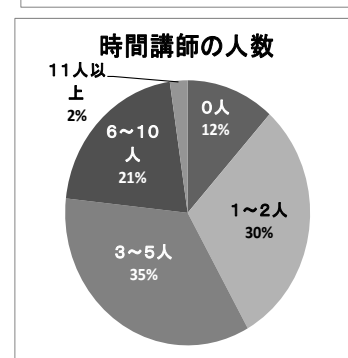
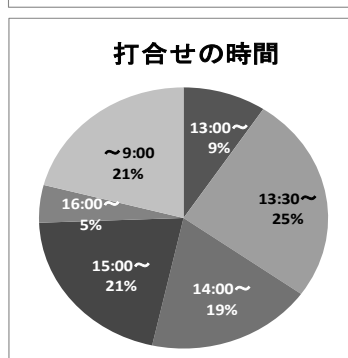
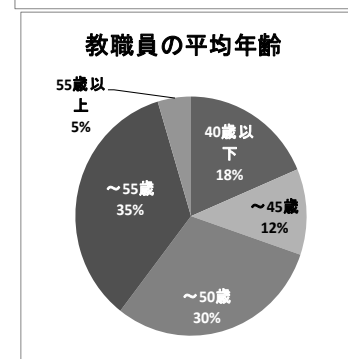
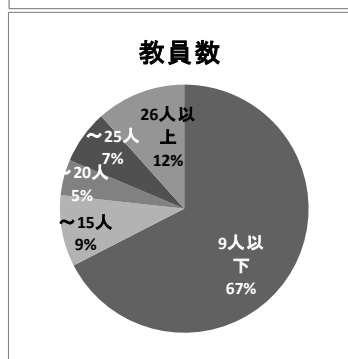
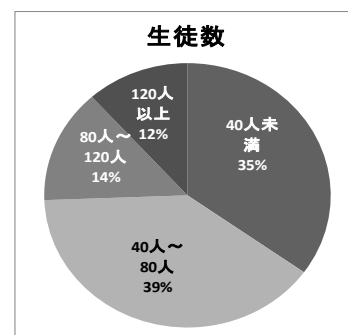
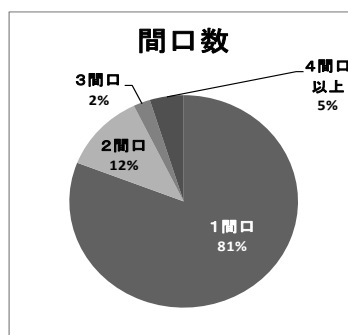
各学校の教員総数は9人以下が29校(67%)。43校中、所在が都市部の学校が76%で、平均年齢が50歳以上の職場が17校40%を占めている。

一方、郡部や離島の学校では平均年齢が40歳以下であり、全道で年齢構成が一樣ではないことは明白である。

打合せの時間は、昼間定時制や単位制・通信制の学校は8時台、夜間定時制の場合は最も早くても13時、最も遅いのは16時30分となっており、幅がある。

時間講師依頼の事情は学校に応じて0人から11人以上とより様々である。

教科では芸術(30校70.0%)が突出しており、家庭科(20校46.5%)が続く。教職員配置定数の影響が強く現れている。



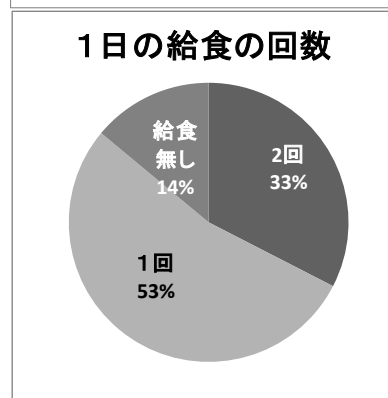
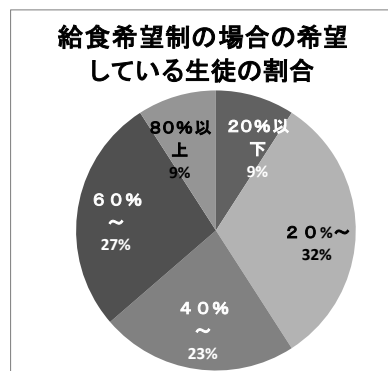
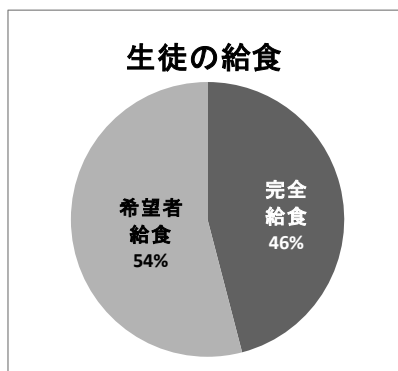
給食を実施していない学校は 43 校中 6 校 (14%)。実施している学校の内訳として、完全給食実施が 37 校中 17 校 (46%)。希望給食実施が 20 校 (54%) となっている。

更に、希望給食実施校において給食を希望している生徒の比率は各校で様々だということがわかる。

業者委託ではなく自校で調理をする場合、給食希望者が少ないと学校給食運営費の確保が困難になる事情がある。昨今は業者委託での給食実施がほとんどである。

1日に2回給食を提供している学校が14校(33%)ある。

昼間定時制6校中半数の3校が給食を実施している。

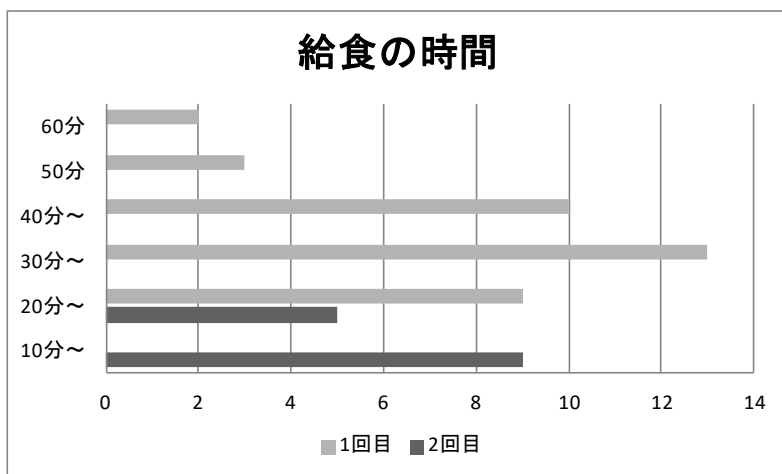
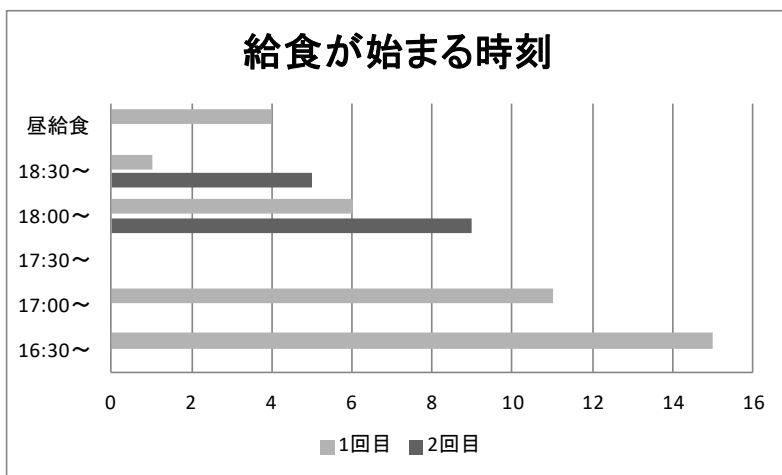


給食の開始時刻は16時30分から17時の間が多く、30分~40分の設定が多数である。18時台に開始する場合は食事の時間が20分から30分と短く設定されている場合が多い。

2回目の給食時間を設けている学校については更に10分から20分と短くなっているようである。

検食の担当は教頭であることがほとんどで、16時から17時に行われていることが多い。

数校では教頭が検食をしていない。

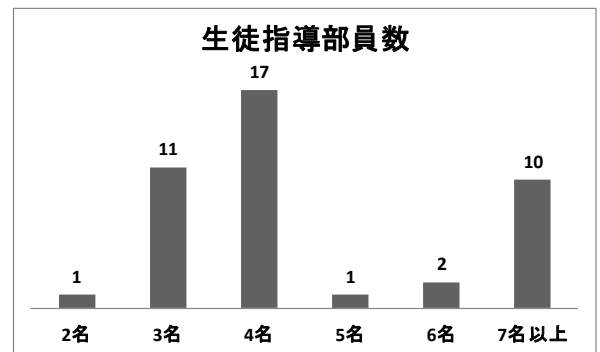
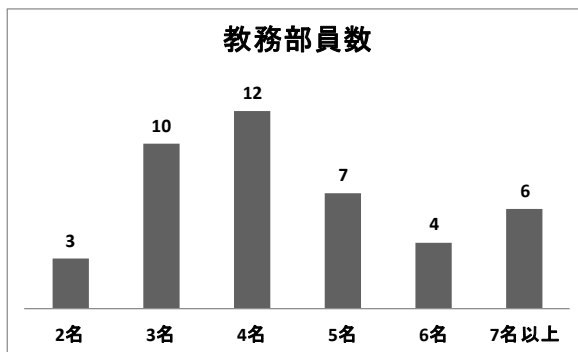
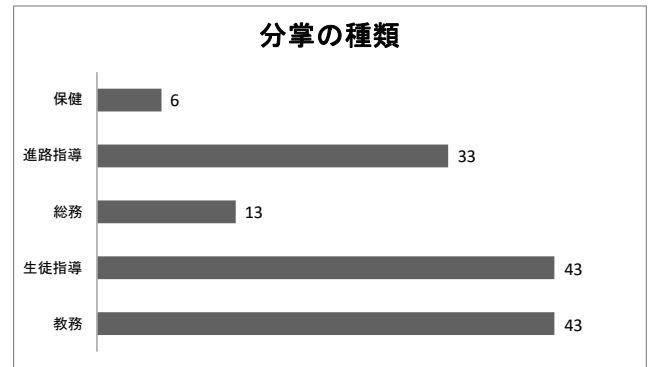
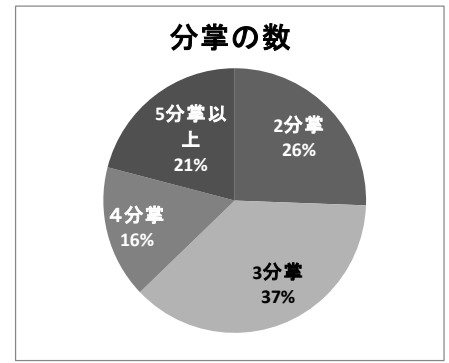


(2) 業務分担の適正化について

分掌数の平均値は 3.6 で、2分掌から4分掌が多い。教職員が多ければ分掌の数は多く設置することができるが、定時制は小規模であることから教職員数は少なく、いくつかの学校では一人の教員が2分掌以上を掛け持っている。

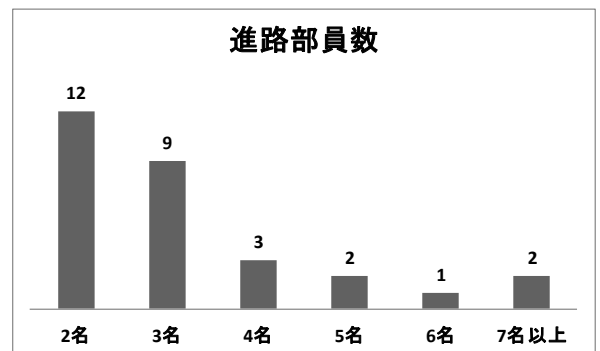
必ず設置されているのは教務部、生徒指導部（それぞれに類似する分掌も含む）で、進路指導部や総務部については、学校事情により様々である。総務の業務を教務部に、生徒会の業務を生徒指導部に内包している場合が多い。

昼間定時制は農業課程がほとんどで、農場や実習、寮務関係の分掌が設置されているが、教職員はそれらの分掌を兼務していることが多い。



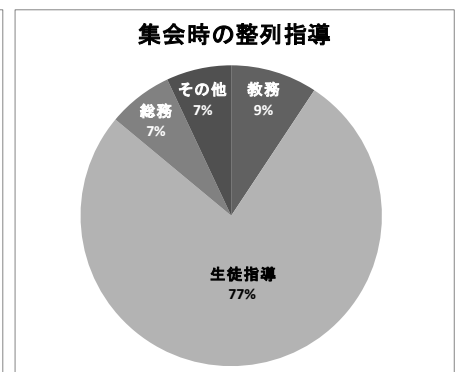
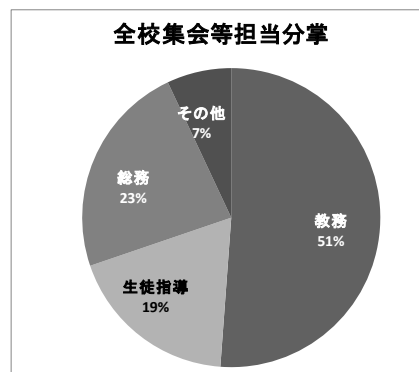
教務部と生徒指導部における部員数は全教員数を鑑みて3~4名の学校が多い。

進路指導業務を担当する教員数は2~3名と、教務と生徒指導部より少なくなっている。



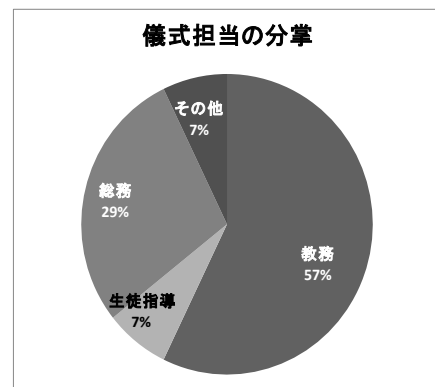
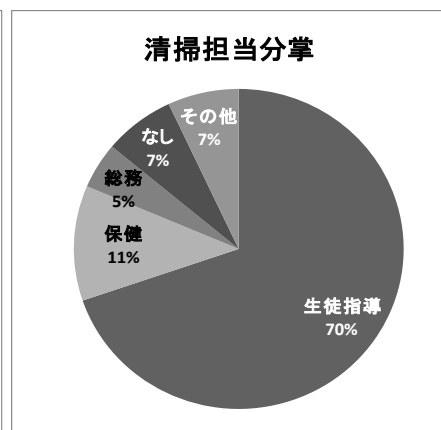
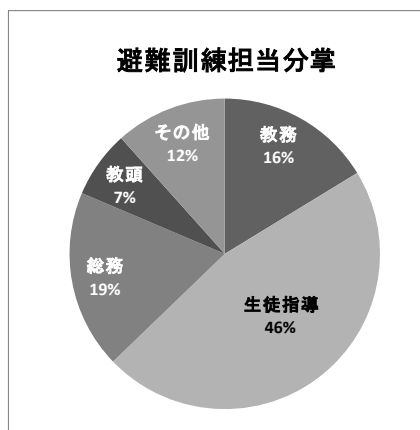
集会時や避難時（訓練を含む）の整列指導は生徒指導部が担当していることが多い。

生徒数が少ないことから、整列指導の必要性が問われていることもあるが、災害時等緊急の危機管理においてリーダーシップを誰がとるかということの日頃から教員間、教員と生徒間で認識しておく必要がある。



清掃に関する業務は多くの学校で生徒指導部が担っている。清掃に関する業務は養護教諭が中心となっていることが多く、養護教諭は生徒指導部に属することが多い。

儀式や全校集会等は一般的に「総務」業務とされており、総務部がない場合は教務部が担当することが多い。



各種委員会数の平均は 11.0、最も多い学校では 20、最も少ない学校では 2 である。委員会を設置する余裕がない場合、多くの学校では分掌が業務を担当し、職員会議での議論を経て取り組むことが多いのではないだろうか。

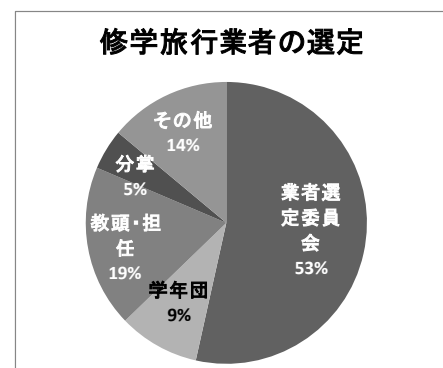
委員会はいじめ対策や学校保健等特定の業務課題について多角的に議論・検証機能を発揮することが望ましいのではないだろうか。

設置されている委員会はおおよそ次のとおりである。

教育課程関係委員会	34 校	防災関係委員会	27 校
特別支援関係委員会	19 校	学校保健関係委員会	35 校
衛生委員会	29 校	業者選定委員会	13 校
給食関係委員会	28 校	入学者選抜関係委員会	27 校
教科書選定関係委員会	14 校	修学旅行関係委員会	18 校
教科書選定関係委員会	14 校	情報関係委員会	15 校
いじめ防止関係委員会	21 校		

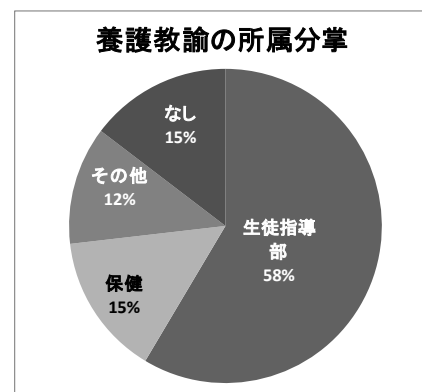
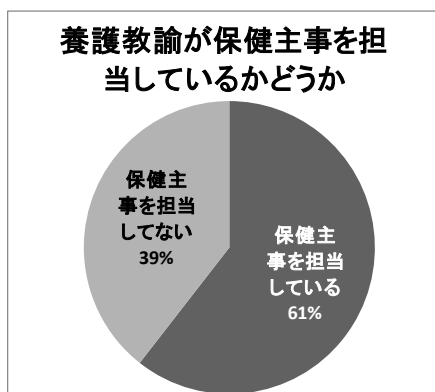
それぞれの委員会は取り組む必要のある特定の課題について設置されている。一人の教諭がいくつもの委員会を掛け持ちする状況になりやすいことから、多忙に拍車をかけぬよう、業務内容の効率化と会議の実施等について年度当初の計画を周到に行う必要がある。

修学旅行の業者選定については、業者選定委員会を経て公正に業者を決定しなければならない。過半数の学校に業者選定委員会が設置されているが、分掌、学年団や教頭や担任が選定をしている場合もあるのが現状である。

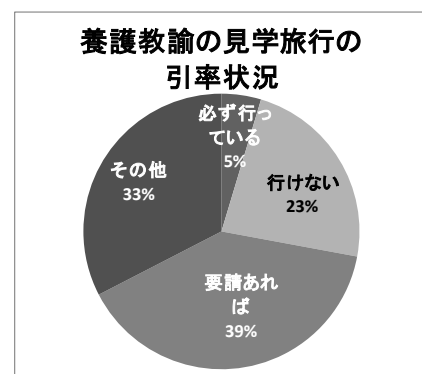
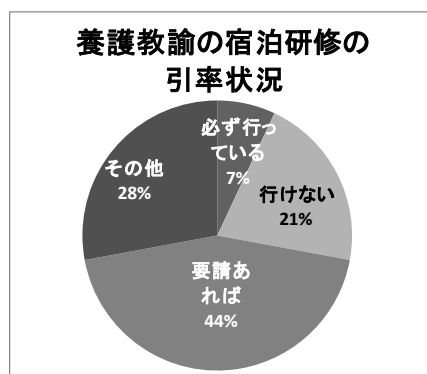


養護教諭は、保健部、保健部が設置されていない場合は生徒指導部に所属している場合が多い。

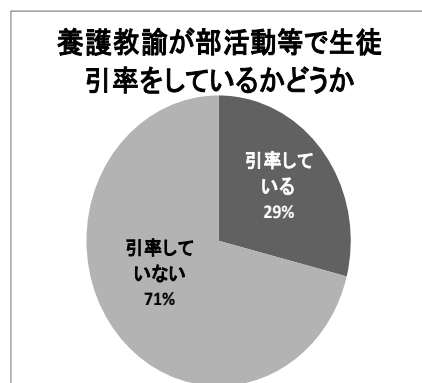
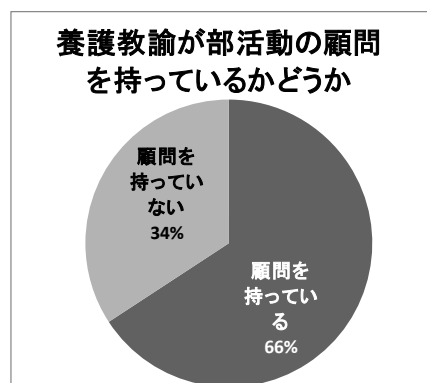
4割の学校は養護教諭以外の教諭が保健主事を担当している。



宿泊研修や見学旅行において、健康上の課題を抱える生徒が多くそれが多様な場合、より多くの情報を有する自校の養護教諭の引率は望ましいことである。研修や旅行の期間中の養護教諭の学校不在の影響を鑑みて決定をしている。



養護教諭が部活動の顧問を持っている学校が過半数を超えていることは定時制の特徴である。大会への生徒引率も30%の養護教諭が行っている。



校内人事での課題（自由記述）

- ・業務の平準化をどうするか。(2)
- ・担任と分掌部長を兼務しなければならない場合がある。
- ・人数が少ないため進路指導業務が担任に偏っている。
- ・限られた人数の中、適材適所に配置するのが難しい。担任か分掌部長かという選択になる。(2)
- ・一人一分掌ではなく、複数担当している。(3)

- ・教員数が少ない分硬直化しやすい。(5)
- ・昼間勤務と夜間勤務の教員がいるため、バランスよく各分掌に配置するのが難しい。
- ・教職員の経験年数。
- ・役割分担が固定化されやすい課題があった。課題解決を図る方策として、今年度より4分掌から3分掌制に再編している。
- ・異動対象者が9割以上であり校内人事がうまくいかない。
- ・長年勤務者が多く、特定の分掌部長が長年固定化し、学校の硬直化の原因になっている。
- ・担任候補が少ない。実力のある教員には部長主任をお願いせざるを得ない。
- ・実習助手が4名おり、副担や引率担当を割当てられないため、学年団や部活動顧問の構成が困難を極める。
(教諭への負担のしわ寄せが相当大きい)
- ・教員数が少ないのに3分掌に分かれており、分掌内で業務を処理しきるのが難しい。
- ・人数が少ない中で異動者が多い時に、分掌部長・担任の割振りが難しい。
- ・分掌数を減らし、分掌部長数を減らすべきか。
- ・再任用教諭が多い。(2)
- ・学科が3つあり、学級担任の決定に制限が多いこと。(4年間を見通した校内人事をしなくてはならないこと)
- ・昨年より、1名減の定数となり、それまで進路指導部がありましたが教務部内においており、業務内容のバランス・適材に配置することが課題です。
- ・年齢が高く本校勤務年数が長い教員が多いため、変化を好まずに慣れた同じ分掌の業務を希望している。
- ・教員の人数と年齢構成。(2)
- ・7名の教員の中に初任段階教員が3名いるため(1年次1名、2年次2名)その配置と全体のバランスや次年度以降を見据えた校内人事が難しい。
- ・分掌等の長を務めることができる教員が足りない。(2)
- ・再任用や期限付き教員が多く、業務の引き継ぎがスムーズにいかない。
- ・教務部長は5年目であるが、後任に適任者がいないため交代できない。
- ・人事交流が過去3年間で1名のみであり、長年勤務者の割合が大きい。
- ・年齢や経験年数、経験分掌等を考慮しながら、業務が偏らないような配置に苦慮している。
- ・希望分掌の偏り。
- ・本校は小規模校のため、多くの先生に免外申請をお願いしている。
- ・定年退職・再任用教諭・期限付き教諭・人事異動により教諭の配置が限られる場合がある。
- ・コミュニケーション不足から、お願いしたいことがなかなか進まない。

業務の平準化のための課題 (自由記述)

- ・教員数の減少
- ・試験監督等、平準化のため教頭が業務を行っている部分もある。
- ・一部の仕事のできる教員に業務が偏る傾向がどうしてもでる。
- ・教員間の理解と協力。
- ・ここ数年、人事異動で入れ替わりが多く、業務をうまく引き継ぎできない状況にあるため、本校での勤務年数の長い先生方の負担が大きくなっている現状がある。業務のマニュアル化を進める必要がある。
- ・本校での経験年数の長い教員に業務が集中している。
- ・特定の業務を特定の教員が担当し続けているため、引継ぎが停滞すること。

- ・各分掌が抱える仕事量に見合う人員（適材）を配置すること。
- ・初任の教員が早く仕事を覚え、成長してもらうこと。
- ・担任と分掌部長の兼務をさける。
- ・先生方の個々の能力・資質、経験年数により業務に偏りがでる。家庭環境や健康状態なども考慮すると少ない人数なのでどうしても特定の教員に頼らなくてはならない状態になる。
- ・職員の意識の変化。職員みんなで学校運営を行う気持ち。
- ・総務部に多くの業務が偏って分担されている。長年の積み重ねでそのようになった経緯があり、管理職の力だけではなかなか解消できない。長年勤務者の「思い」が強すぎて、新しい風を吹かせられないことが、最大の課題。
- ・分掌内での係分担を明確化した上で、業務の推進に努める。
- ・教務・総務の業務量が年々増えている（支援システム・奨学金・教科書事務の詳細化等）。一方で、他の分掌の業務は生徒数の減少により減っているため業務が偏ってきている。
- ・年齢が上であっても、適性や生徒指導力等によって業務を当てるのが適切ではないと思われる教員がいることで、業務の平準化が出来ない。
- ・現在行っている仕事の要不要について未整理な状態。（各業務における PDCA サイクルが未確立）
- ・SATなど、業務が特定の人に偏ってしまう。
- ・教務支援システムなどICTを利用した処理を有効に使用すること。
- ・教員によって能力、意欲等の差が大きいため、業務も必然的に差が出てしまう。
- ・教員の増。
- ・特定の教諭に仕事が集中しないようにする。
- ・分掌部長と担任を兼務させない。
- ・分掌により業務の偏りが生じており、分掌の改編の必要性も考えられる。
- ・未経験の業務や困難な業務にも前向きに挑戦する教職員の姿勢。
- ・分掌等の枠組にとらわれない協力体制の構築と汎用的能力の向上。
- ・各個人の能力により仕事量が偏る。（4）
- ・分掌部長に企画や報告等の業務が偏る傾向にある。（なるべく、教頭段階で行い、業務の平準化になるように行っているが）
- ・業務の協働化。
- ・管理職による超過勤務の実態把握。（教頭が記録して状況に応じて指導する）
- ・定時退勤日の設定。
- ・業務の効率化を課題としていますが、平準化は特に課題としていません。
- ・平準化を目指してはいるが、教員の適材適所を考慮すると難しい面がある。（2）
- ・各分掌における業務改善。
- ・初任者層が多いため複数校経験者の仕事が偏ってしまうこと。

考察

1 現状の課題

様々な要因で各分掌への適材適所の配置が困難であること、ミドルリーダーの不足の問題、各分掌毎の業務改善が必要と思われること、長年勤務者の問題など、定時制課程ならではの教員が少人数であるがゆえの課題が山積している。

2 解決のための方策

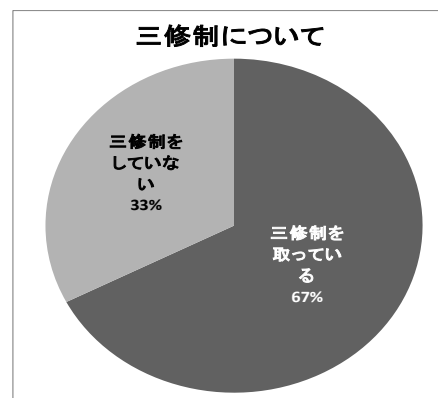
教員一人一人の資質を向上させることにより特定の教員の負担の軽減を図ることは可能である。そこは、管理職の先生方があきらめることなく粘り強く取り組むことが必要であると考えます。

(3) 三修制について

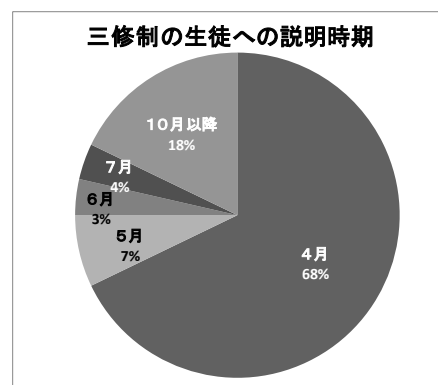
現在三修制を導入した学校は29校（67%）と過半数を超えている。

専門学科の学校については三修制をとっていない場合が多い。

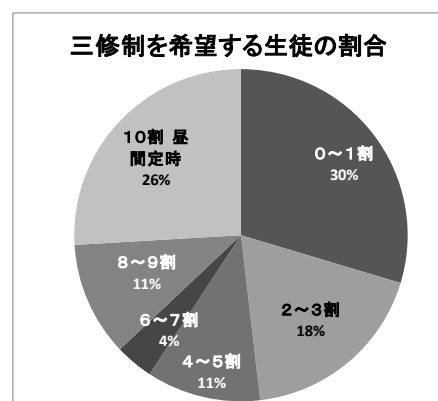
農業科の多い昼間定時制では3年で卒業するカリキュラムが基本である。



三修制を取り入れている学校のほとんどは新生入生に対して入学間もない時期に制度の説明をして周知している。次年度以降の科目履修について主体的に検討する良い機会となっているはずである。

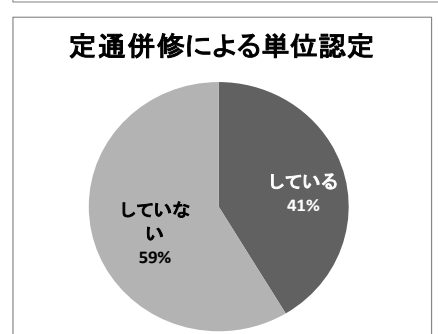


しかし、実際には三修制を希望する生徒が多くない実態がアンケート結果からわかる。

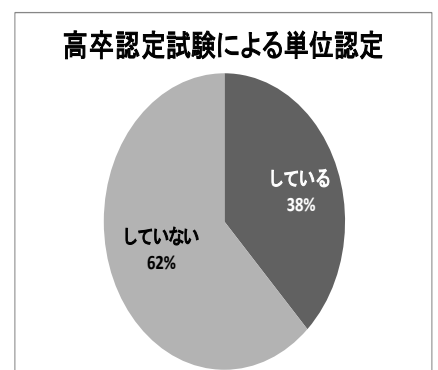


定通併修によって単位を修得可能としている学校の数は12校（41.3%）で、科目は国語、地歴公民、数学、理科、英語、家庭科、体育、情報、専門科目等各学校で多様である。

有朋高校が開設している科目全てという学校もある。修得できる単位数の上限が最大25単位という学校もある。



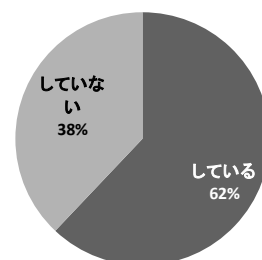
高卒認定試験により単位を修得可能としている学校の数は11校（37.9%）であり、教科科目は多様である。修得した単位を全て認める、修得単位数の上限を設けていない学校も数校ある。



日本漢字能力検定や実用英語技能検定や商業、農業、工業等外部資格検定で専門学科に関わる検定を修得単位と認める学校は18校（62.1%）である。

修得単位数の上限が20単位を超える学校が7校、上限そのものを無くしている学校は5校である。

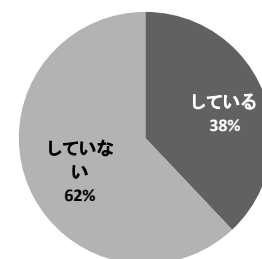
外部資格による単位認定



外部での活動を単位認定している学校数は11校（37.9%）で、活動の内容は課題研究や企業実習、ボランティアの科目で代替している学校が多い。

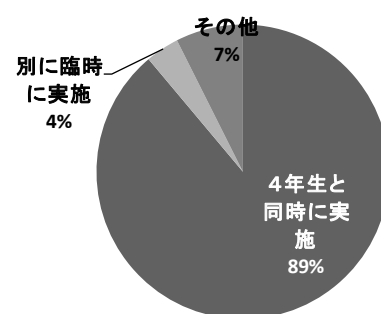
認定単位数の上限を36単位とする学校もあるが、実際には2単位から9単位の学校が多い。

外部の活動による単位認定

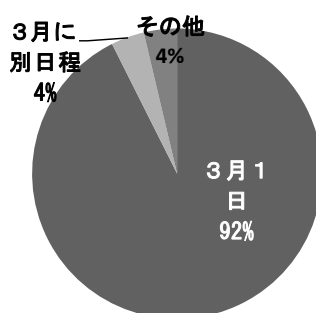


三修制生徒の対応についてはほとんどの学校が4年で卒業する生徒（4年生）と同様の対応となっている。4年生と同様に家庭学習期間に入り、4年生と同時に卒業認定会議を実施し、3月1日に卒業式を実施している。

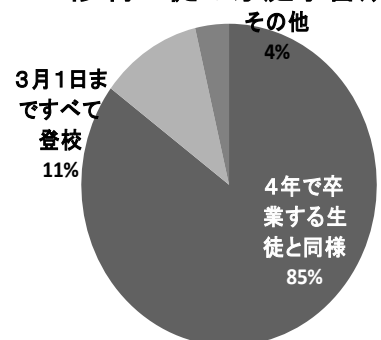
三修制生徒の卒業認定会議



三修制生徒の卒業式

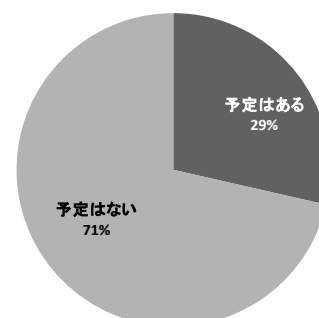


三修制生徒の家庭学習期間



三修制未導入の学校の今後の導入予定は70%以上の学校が導入を予定しないことがわかった。

今後三修制を実施する予定



考察

1 現状の課題

三修制を導入している学校は全道の定時制高校の3分の2となっていることが分かったが、実態として、三修制を希望して3年で卒業する生徒の割合が少ないことが明らかとなった。つまり、様々な課題を抱えた生徒を卒業させるためには時間をかけてしっかりと教育をしていく必要があるのかもしれない。また、三修制を導入している学校の単位認定について、外部資格を取得した科目について単位を認めている学校は多いが、定通併修や高卒認定試験などの活用をしている学校が少ないことも分かった。昼間定時制の学校は3年で卒業できるカリキュラムとなっているので夜間定時制とは区別しなければならない。

2 解決のための方策

三修制を活用して定時制でも3年で卒業できるシステムは必要だと思われるが、定時制に通う生徒全員が3年で卒業を希望しているわけではなく、1年生でのしっかりとした面談（三修制の説明など）が必要であり、本当に3年で卒業することが大事なのか、時間をかけて卒業することが大事なのかを生徒に考えさせる事が重要である。また、学校外での単位取得の方法も多岐に渡っており、特に定通併修では他校との連携が必要になるため、丁寧な説明が大切である。

1 基本事項

- 設問1-1 教頭先生の教員経験年数
ア 15年以下 イ 16年～20年 ウ 21年～25年 エ 26年～30年 オ 31年以上
- 設問1-2 経験校数（現職校含む）
ア 3校 イ 4校 ウ 5校 エ 6校 オ 7校以上
- 設問1-3 これまでの経験学校（複数回答あり 管理職として）
ア 大規模校（6間口以上） イ 中規模（3～5間口）
ウ 小規模（1～2間口） オ 全日制 カ 定時制 キ 通信制
ク 単位制（総合学科含む） ケ 普通科単置 コ 職業学科単置
サ 複数学科型 シ 総合学科
- 設問1-4 教諭のときの経験部長職（複数回答あり）
ア 教務 イ 総務 ウ 生徒指導 エ 進路指導 オ 学年主任 カ その他
- 設問1-5 管理職としての経験校数
ア 1校目 イ 2校目 ウ 3校目 エ 4校目 オ 5校目以上
- 設問1-6 現任校の地区 ア A イ B ウ C エ D オ 特D
- 設問1-7 現任校の課程 ア 夜間定時 イ 昼間定時 ウ 通信制 オ 単位制

2 学校の様子

- 設問2-1 学校の間口数（全定併置の場合は定時のみ）
ア 1 イ 2 ウ 3 エ 4 オ 5間口以上
- 設問2-2 生徒の在籍数（5月1日現在）
- 設問2-3 職員打合せの時刻
- 設問2-4 教員の人数（講師、管理職除く）
- 設問2-5 教員の平均年齢（講師、管理職を除く）
- 設問2-6 非常勤講師の人数、科目名
- 設問2-7 教頭が給食の検食をする時刻（給食がない学校は不要）
- 設問2-8 生徒の給食の時間は何時何分から何時何分までですか。
（給食がない学校は不要）
- 設問2-9 生徒の給食について（給食がない学校は不要）
ア 全員給食である イ 希望者の給食である（人数も記入ください）

3 業務分担の適正化について

- 設問3-1 分掌の名前とその分掌の人数
- 設問3-2 次の事項はどの分掌で担当していますか。
① 避難訓練 ② 校内美化清掃 ③ 全校集会の企画運営 ④ 集会時の整列指導
⑤ 儀式の企画運営
- 設問3-3 委員会の数
- 設問3-4 委員会の名称を全てお答えください
- 設問3-5 修学旅行業者はどのように選定しているかお答えください
ア 業者選定委員会 イ 学年団 ウ 教頭・担任 エ 分掌 オ その他
- 設問3-6 養護教諭について
① 宿泊研修の引率状況について、
ア 必ず行っている イ 学校事情により行くことができない
ウ 学年の要請があれば行っている エ その他

② 見学旅行の引率状況について

ア 必ず行っている イ 学校事情により行くことができない

ウ 学年の要請があれば行っている エ その他

③ 保健の授業を持っているかどうか ア 持っている イ 持っていない

④ 部活動の顧問を持っているかどうか ア 持っている イ 持っていない

⑤ 部活動で生徒引率をしているかどうか ア している イ していない

⑥ 所属分掌はどこですか。

⑦ 保健主事を担当しているか ア している イ していない

設問3-7 校内人事での課題を具体的に記載してください。

設問3-8 業務の平準化のための課題を具体的に

4 3修制について

設問4-1 3修制を実施していますか。

ア している イ していない

していない学校は設問4-11へ

設問4-2 3修制の生徒への説明の時期は1年生のいつ頃ですか。

ア 4月 イ 5月 ウ 6月 エ 7月 オ 8月 カ 9月 キ 10月以降

設問4-3 3修制を希望する生徒は入学者の何割くらいですか。(年度によって違うと思いますが、平均で)

設問4-4 定通併修で修得できる単位数は何単位までですか。またその科目は何ですか。

設問4-5 高卒認定試験により修得できる単位数は何単位までですか。また、その科目は何ですか。

設問4-6 外部資格によって修得できる単位数は何単位までですか。また、その資格とその科目は何ですか。

設問4-7 アルバイトなど、外部での活動による単位認定は何単位までですか。また、その科目は何ですか。

設問4-8 3修制生徒の卒業式について

ア 4年で卒業する生徒と同じ3月1日に実施する イ 3月に別日程で行う ウ その他

設問4-9 3修制生徒の卒業認定会議について

ア 4年生の卒業認定と同時に実施する イ 別に臨時に実施する ウ その他

設問4-10 3修制生徒の2月の登校状況について

ア 4年で卒業する生徒と同様に家庭学習期間とする

イ 3年生として2月27日まで登校し、28日と3月1日は卒業生として登校

ウ その他

設問4-11 3修制を今後導入する予定はありますか。(実施していない学校のみ)

ア ある イ ない

4 おわりに

本調査の結果、本道定時制通信制高校において、人数不足による硬直化した校内人事、日々の業務の偏り、など様々な課題が浮き彫りとなり、各学校の教頭先生の御苦勞が浮き彫りとなった。このような中で、前向きな意見として、「職員の意識の変化、職員みんなで学校運営を行う気持ち」が重要であると考えます。教員間の理解と協力で乗り越えていくしか他に手立てが無く、大事なことは教員間でのコミュニケーション。確かに難しい教員がいることも事実だとは思いますが、目の前にいる生徒のために「チーム学校」として乗り越えていく必要がある。

また、今回の調査結果から他校の状況を参考にして各高校で一層の改善に取り組んで頂くきっかけとなれば幸いです。

ご多忙の中、調査にご協力いただいた本部会加盟校の副校長・教頭先生に心から感謝申し上げます。

第49回北海道高等学校給食研究協議会

北海道大会報告

北海道札幌工業高等学校 教頭 佐藤 恵文

退職にあたって

北海道旭川商業高等学校 教頭 川淵 正広

平成29年8月4日(金)に第49回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会を開催しました。来賓に北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食グループ主幹横野博子様をお迎えし、全道各校から多くの給食担当者の方々に参加をいただきました。

1 理事総会・研究協議会

(1) 報告事項

- ア 平成29年度活動計画及び中間報告
- イ 平成35年度までの各種輪番等の確認

(2) 協議事項

- ア 給食研の活動について(意見交換)

(3) その他

- ア 全国高等学校給食研究協議会について

2 第49回北海道大会

(1) 講演

講師 光塩学園女子短期大学食物栄養科

准教授 能井さとみ 様

演題 「みんなが笑顔!光塩給食

～安全・安心!美味しい!楽しい!

給食づくりを目指して

～」

要旨 光塩給食では全国的にも珍しい「単一献立で、学生・教職員共に同じメニュー」を提供している。献立を作成する上で栄養バランスや主食や主菜も偏らないような工夫を凝らしている。毎年4月に健康診断を行いBMIで平均値を算出している。衛生面でも細心の注意を払い調理しており、楽しく健康に過ごせることを目標としている。

(2) 研究発表

発表 北海道函館工業高等学校

教頭 汐川 裕彦 様

題 「本校の学校給食運営の現状と課題」

要旨 生徒数減少に伴って喫食数が減少や食材の価格高騰の影響を受け、給食費の見直しを検討したが、値上げはすることなく給食の内容を工夫することで何とか対応している。講演会やアンケートを実施し生徒・保護者に給食の良さをアピールしている。

教員となって、最後2年間を定時制課程で勤務できたことは、私にとってかけがえのない経験であり、色々な課題を抱えながら懸命に頑張っている生徒の姿は定時制教育の大切さを再認識させられ宝物でした。

教員になって、家庭を顧みず過ごしていた30年間を家族が支えてくれたことに感謝しています。退職にあたり、38年間の教員生活の中で出会った多くの人に支えられ、育てていただいたことに心から感謝申し上げます。これからの第二の人生で恩返ししたいと思っています。本当に、ありがとうございました。

平成30年度定通部会 事業計画（案）

● 北海道の事業計画

No.	事業計画	期日	会場
1	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	平成30年 5月16日(水)	ホテルライフオーブ札幌
2	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	5月16日(水)	ホテルライフオーブ札幌
3	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・ 研究協議会	6月 4日(月)	ホテルライフオーブ札幌
4	◆第50回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会	8月上旬	札幌北高等学校
5	◆第62回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会	10月10日(水)	札幌市教育文化会館
6	◆平成30年度調査研究部報告（『会誌』掲載）	平成31年 3月上旬	

● 全国の事業計画

No.	事業計画	期日	会場
1	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 校長並びに教頭・副校長研究協議会	平成30年 5月 7日(月) ～ 8日(火)	山形県立霞城学園高等学校
2	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	6月 1日(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター （東京都）
3	◆第70回全国高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会（全通研大会）	6月13日(水) ～15日(金)	ひめぎんホール（愛媛県松山市）
4	◆第69回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 教育研究協議会（全教協大会）	7月26日(木) ～27日(金)	ホテル東日本盛岡（岩手県盛岡市）
5	◆第69回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 （全振大会）	8月 2日(木) ～ 3日(金)	コラッセふくしま（福島県福島市）
6	◆全国高等学校給食研究協議会 理事会・総会	8月上旬	東京都学校給食会館
7	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会（地区通研大会）	10月25日(木) ～26日(金)	ウェディングプラザアラスカ（青森県青森市）
8	◆第66回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会	11月24日(土)	六本木ヒルズハリウッドプラザ（東京都）
9	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 教頭・副校長研究協議会	12月 6日(木) ～7日(金)	秋田明德館ビル2階カレッジプラザ （秋田県秋田市）
10	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	12月14日(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター （東京都）

《編集後記》

定通部会における広報部の業務につきましてご理解・ご協力いただきありがとうございます。おかげをもちまして、本年度の「会報」も無事発行の運びとなりました。

編集発行にあたり、校務ご多用の中ご執筆いただきました校長協会定通部会長の宮田校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEB更新にあたりご協力いただきました、北海道有朋高等学校の諸先生方にあらためて感謝申し上げ、編集終了のあいさつとさせていただきます。

[北海道恵庭南高等学校教頭 高橋 俊光]